

平成24年度 傾斜的研究費(全学分) 研究環 研究報告書

研究代表者 所属	フリガナ 研究代表者氏名	タノ カズシ 玉野 和志	職	教授
首都大学東京	研究分担者氏名	宮台真司	職	教授
中央大学		中澤秀雄		教授
法政大学		齊藤麻人		非常勤講師
岐阜大学		山崎仁朗		准教授
滋賀県立大学		丸山真央		助教

研究環 組織名	グローバル化の下での都市と国家の再編成		
HP	*本研究環組織のHPを作成している場合は、そのURLをご記入下さい。		
研究実績の概要(600~800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。)		本学HPでの公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 <input type="radio"/> 否
<p>本年度は、ハーバード大学のニール・ブレナー氏を招聘し、首都大学東京での国際講演会を開催するとともに、地域社会学会の大会シンポジウムでも報告をしていただいた。地域社会学会のシンポジウムでは、国際的に注目を集めるようになっていると同時に、それゆえいさか乱用されつつある「リスケーリング」の概念について、厳密な意味での理論的考察を行った報告をしていただくことで、「リスケーリング」をめぐる議論の内実とその可能性について、国内の専門研究者の間での最低限の共通の理解を形成することができたように思う。他方、首都大学東京での国際講演会では、月曜日の午前中という時間帯にもかかわらず、学内外から60名以上の参加者を集めることができた。内容については、学部の学生等の参加も見込まれるということで、学会の場合とは異なって、理論的に厳密な考察を中心にするというよりも、この点については最低限に留め、ヨーロッパを中心とした1970年代以降の都市政策の変遷を具体的な題材として、国家のリスケーリングという議論がなされるようになってきた歴史的な背景についての体系的な紹介をしていただくことができた。当日は、学部の学生も含めた多くの参加者から興味深い質問が多くなされ、活発な議論を行うことができた。内外の研究者も含め、国家のリスケーリングという議論の下で、グローバル経済における基本的な成長戦略の変化、そこでの国家と都市との役割分担の変化や権限の移譲などの課題がどのように論じられてきたかについての理解が、一段と進展することになったと評価できる。</p> <p>さらに、前年度に結成した「TMUリスケーリング研究会」の成果として、ここに参加してくれた学外の研究者からのよびかけでメンバーのひとりが国際政治学会のマドリッド大会で報告を行うと同時に、複数のメンバーでこれに参加することができた。そこでは、研究会での成果をふまえて、英米をモデルとした都市政策の変遷との比較で、日本の事例が紹介されたが、ヨーロッパの他の国々からの参加者を含めた部会での討論では、英米との比較に拘泥する必要はないのであって、むしろスペインやイタリアなどの他のヨーロッパ諸国の動向と比較することにも一定の意義があるのではないかという主旨の議論が行われた。国家のリスケーリングをめぐる都市政策の展開の背景には、グローバルに広がった資本主義世界経済のシステムとの関係で各国が共通に直面する課題が伏在しているのであって、重要なのは経路依存的な各国に独自の現象形態を、そのような共通の課題という観点から比較し、分析することであって、日本の経験についてもそのような意味での発信が求められていることを改めて認識することのできたように思う。</p>			

平成24年度 傾斜的研究費(全学分) 研究環 研究報告書

学会発表(発表題目、発表大会名、年月を記入)		本学HPでの公開の可否 <input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否			
中澤秀雄, 「<試みられた>ステート・リスケーリングと主体のリワイアリング」, 地域社会学会研究例会, 2012年7月 Asato Saito, Rethinking Urban Politics in Japan: Critical (non)reaction to New Urban Politics, IPSA World Congress of Political Science, Madrid 2012, July					
論文発表又は著書発行(発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入)		本学HPでの公開の可否 <input checked="" type="radio"/> 可 ・ 否			
玉野和志, 「日本におけるリスケーリング研究の可能性をめぐって」, 地域社会学会編『地域社会学会年報第24集 リスケーリング下の国家と地域社会』, ハーベスト社, 2012年5月 玉野和志, 『グローバル・シティ・リージョンズとしての日本都市の現状と可能性に関する研究』, 2010年度~2012年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書 玉野和志, 「資本主義世界経済の転換と地域政策の課題」, 『大原社会問題研究所雑誌』656, 2013年掲載予定 中澤秀雄, 「平成リスケーリングを問う意味」, 地域社会学会編『地域社会学会年報第25集 リスケーリング論とその日本駅文脈』, ハーベスト社, 2013年5月					
学術会議開催実績報告					
首都大学東京国際講演会「グローバリゼーションのもとでの都市と国家の再編成」 2012年5月14日, 首都大学東京 南大沢キャンパス 国際交流会館 大会議室 講演「新自由主義化する資本主義の時代における国家のリスケーリング」ハーバード大学 ニール・ブレナー 参加対象者 学内, 学外, 一般 参加人数 61名					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
2010年度~2012年度科学研究費補助金(基盤研究C) 研究課題「グローバル・シティ・リージョンズとしての日本都市の現状と可能性に関する研究」 研究代表者: 玉野和志					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
研究分担額					
研究代表者・分担者名	所属			金額(円)	